

## 令和5年度 事業報告

本学園の主要財源は学生生徒等納付金収入、及び国・地方公共団体からの補助金収入であり、学生生徒等納付金収入では近年の学生数増加により安定化した主財源となっている。また、各種補助金や外部資金の導入も重要であると考え、受託研究事業、科学研究費補助金、教育研究振興募金事業等の外部資金の獲得に積極的に取り組んだ。さらに、資金運用にて受取利息配当金収入の増加につなげた。

北海道情報大学においては、大学機関別認証評価に向け、自己点検評価書の作成など着実に準備を進め、10月12日、13日に実地調査を受審、3月15日付で「大学評価基準に適合している」と認定された。また、大学機関別認証評価で重点評価事項となっている、内部質保証の改善・充実に向け、各部署や委員会、IR（インスティテューショナル・リサーチ）推進室が連携し、学修成果の可視化及び評価の方針（アセスメント・ポリシー）に則って、エビデンスに基づいた検証を行い、教育の改善につなげた。

通信教育部においては、オンライン学習環境のDX化や教育センターとの連携推進により、正科生Bの入学者数は順調に推移した。

北海道情報専門学校においては、道内専門学校116校の中で、学生数が道内最大規模を誇り、少子化が進む中、ほぼ定員に近い在校生数を維持している。また、ICT教育の伝統と実績を有する専門学校として、「産・学・研」連携による最新技術・最先端の教育により、情報処理技術者試験で全道一位の合格実績を上げることができた。特に高度種の資格では全国専門学校一位の実績を上げている。

就職実績は大学が96.3%、専門学校が99.6%と、両校ともに高い就職率となった。

令和5年度に本学園が実施した主な事業は、以下のとおりである。

### （1）北海道情報大学（HIU）

- ① 建学の理念である「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を継承しつつ、「Quality First」をミッションとして策定した「HIU Vision2025」を反映した「第3期中期目標・中期計画(2021年度～2025年度)」の3年目として、2023年度計画を確実に推進した。
- ② 単位修得数と退学率には強い負の相関があることから、成績不振の学生の早期発見や複数担任制度を活用し、学習面と精神面をサポートすることにより退学率の改善に努めた。
- ③ 国際情報化に適応できる国際性豊かな人材を育成すべく、令和6年度から新たに開講する「国際情報プログラム」を見据え、留学プログラムの見直しなどを行った。
- ④ 教育におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を図るため、DX推進センターを中心に、IR推進室との連携によるスマートデジタルポートフォリオの作成に着手した。また、臨床工学専攻の授業でVR（バーチャル・リ

アリティ) を使って人工透析回路の組み立てシミュレーションを行うなど、最新の技術を教育や研究に利活用した。

- ⑤ 入試広報活動においては、高校訪問や直接接触を基本としつつ、デジタルコンテンツの充実、オープンキャンパスにおける学生スタッフの効果的な活用など、広報の質向上と大学の認知拡大に取り組んだ。その結果、資料請求や直接接触などの引合者は昨年に引き続き増加したが、志願者数の減少や入学歩留まりが低下したことにより、入学者は減少したものの収容定員1720名に対し充足率104% (1789名) と定員を超える状態を維持した。
- ⑥ 通信教育部においては、試験の完全オンライン化の実施と、LMS (学修管理システム) による学修支援機能を新たに構築することで、他大学との差別化を図った。また、通学課程カリキュラムに対応したカリキュラム改正を行い、通学課程との連携を強化した。
- ⑦ 本学・江別市・農研機構・島津製作所・セルフケアフード協議会の共同で、江別市民1200人を対象に食と認知機能の関係性を解明する、10年間のコホート研究「江別いきいき未来スタディ」を開始した。また、第3期戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」(令和5年度～令和9年度) に参画し、AYA世代 (思春期・若年成人15歳から39歳) を対象にした食と健康に関わる健康課題解決に向けた研究開発を開始した。
- ⑧ 校舎保全5ヵ年計画の3年目として、通信教育棟の外壁改修や女子学生寮の駐輪場移設、体育館の床材更新工事などを行った。
- ⑨ 教室のAV設備の最新鋭化やDXの基盤となる学内無線LANの増強、eDCタワーとLL・メディア実習室等のネットワーク機器の更新、対面授業と遠隔授業を同時に実施可能な教育システムの構築などにより、ICT環境をより充実させるとともに、教室のAV機器更新や図書館、実習室の備品更新など、教育環境の整備を進めた。また、施設・設備の充実を図るため、校舎棟2号館の冷房化工事を完了し、校舎棟1号館の教室や厚生棟トレーニングルームのリニューアルを行った。

## (2) 北海道情報専門学校 (HCS)

- ① 募集活動では、『Quality First』を念頭に、安定した学生確保を実現するために、高い実績をあげている「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」を広報の三本柱として展開した。
- ② 大学進学志向の強まりから昨年度同様に入学辞退者が多く、入学者は減少したが収容定員960名に対し充足率99% (950名) を維持した。
- ③ 情報処理の国家試験において、以下の合格実績を上げた。

<レベル4：高度な知識・技能>

- ・情報処理安全確保支援士 28名 (全国専門学校1位)
- ・データベーススペシャリスト 10名 (全国専門学校1位)
- ・ネットワークスペシャリスト 1名 (道内専門学校合格者で唯一)

<レベル3：応用的知識・技能>

- ・応用情報技術者 107名（全国専門学校1位）

<レベル2：基礎的知識・技能>

- ・基本情報技術者 203名（道内専門学校1位）
- ・情報セキュリティマネジメント 145名（道内専門学校1位）

- ④ 就職活動は順調に推移し、HIU との W スクールである大学併修科(4年制)はその特徴から7月上旬に100%内定を達成した。全体においても内定率が99.6%と好調に推移し、この実績を広報に展開した。
- ⑤ 技術レベルの評価、及び人間的な成長の観点から外部コンテストに積極的にチャレンジし、以下の実績を上げた。
- ・北海道起業家甲子園 2023 (主催：北海道総合通信局)で企業賞を受賞
  - ・SCC アプリコンペ 2023(主催：株SCC)で3チームが受賞[優秀賞・eDCグループ賞、特別審査員賞]
  - ・HOKKAIDO 学生アプリコンテスト 2024 (主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会)で北海道 IT 推進協会賞を受賞
  - ・第10回 Business Design & Action Award 2023-2024 北海道(一般社団法人ビジネス・アクション・クラブ)でさっぽろ産業振興財団賞・AI ビジネス賞受賞
  - ・第12回 全国専門学校ゲームコンペティション(一般社団法人全国専門学校情報教育協会)でゲームデザイン賞を受賞
- ⑥ 校舎保全5ヵ年計画の3年目として、3号館外壁改修工事を行い校舎の整備を行った。また、2教室(93台)への最新パソコンの導入、職員用ネットワーク環境や教材研究用PCの整備、2教室への電子黒板導入、3教室の学生椅子更新を行い、教育設備・教育環境整備を継続して進めた。

以上